

法的実務でも重宝

28年ぶりの宗教判例集

宗教法人を巡る裁判の判例集は、最近のものでは1991年発行の『宗教判例百選(第2版)』があるが、それ以後の空白を埋める判例集『弁護士実務に効く 判例にみる宗教法人の法律問題』が、ついに刊行された。

宗教法人に関する訴訟は、信教の自由が大きな前提としてあり、「法律上の争訟」に当たるといえる。つまり司法権の限界が、しばしば問題になる。包括・被包括関係や宗門・教団など宗教団体それぞれの歴史背景も問題も複雑にしている。檀務など宗教実務の実情を知らなければ、判断を誤る危険がある。

著者の本間久雄弁護士が指摘するように、宗教法人法自体が会社法に比べると条文数が10分の1以下と少なく、裁判で法的判断の基礎が十分固まっていけない領域がある。

それだけに初めて宗教法の事件に携わる法律家にとって、最新の裁判例を把握しておくことがより一層重要になる。

本書は「宗教と憲法」「宗教とガバナンス」「宗教と墓地葬祭法」「宗教と民事法」「宗教と刑事法」「宗教と税法」の6章で構成される。宗派の懲戒処分と宗教法人役員の地位保全の問題、宗教法人売買を巡るトラブル、宗教法人関係者の労働者性、境内地の非課税

に関する諸問題など、宗教法を扱う実務家には興味深い判例が紹介されている。弁護士ら法曹関係者だけでなく、法律的な問題の実務に携わる宗務部門でも備えておけば便利な一冊だろう。

著者は1982年生まれ。東京大法学部卒、慶応義塾大法科大学院を修了。2008年に弁護士登録。日蓮宗僧侶。宗教法学会会員。『寺院法務の実務と書式』(共著)などの著書がある。

本体価格4300円、第一法規(フリーダイヤル)0120・203696刊。
(津村恵史)

